

甲虫 No. 59
ニュース

COLEOPTERISTS'
NEWS

November, 1982

日本産コフキコガネ族概説(2)

小林 裕和

Ⅲ. Genus *Holotrichia* HOPE, 1837 クロコガネ属

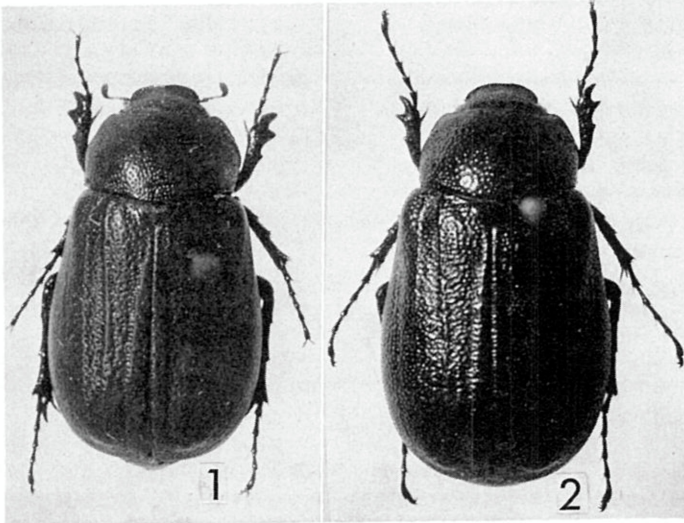
本属は東南アジア地域におけるクロコガネ亜族の中にあって最大の属であり、現在この地域だけで約270種近くの種類を含んでいる。

この属は、HOPEが創設した時の記載が簡単であったために、以来他の属との間に混乱が起り、扱われ方が非常に複雑である。東南アジア地域だけに限ってこの属を説明する場合、触角は10節で葉片部は雄雌とも3節で、爪は内側に垂直に立った内歯を具え、後胸板はたいいていの場合、長い毛に被われることなどから他の属との区別は可能である。しかし、新大陸に分布する大属 *Phyllophaga* (= *Lachnosterna*) 属と比較した場合、私の手許にある狭義の *Phyllophaga* 属約50種程の標本でさえ、属の境界線がどこに置かれているのか判然としないような種が多い。

一時期、背面に光沢があり、上翅に毛を欠などの特徴をとらえて我国に産するこのグループを *Lachnosterna* 属として取り扱ってきたことがある。しかし、背面における光沢や毛の有無などだけでは、この種数の多いグループを完全に区別することは難しいものと思われる。また、最近の論文の中でも *Holotrichia*, *Sophrops*, *Brahmina* などの諸属を同一のものと見做し、全て *Holotrichia* 属として取

り扱っているようなものもある。しかも、前述の通り新大陸に分布する *Phyllophaga* 属とは、その明確な区別が難しいことなどを考え合わせると、このグループの位置づけはさらに困難なものとなってくる。

今後、このグループの汎世界的な整理・再検討が是非とも必要と思われるが、現段階では、我国に産するこのグループの属名として *Holotrichia* を使用するのが最も妥当であろう。



1. *Holotrichia amamiana* (NOMURA) アマミクロコガネ
2. *Holotrichia l. lochooana* (SAWADA) リュウキュウクロコガネ

日本産種の検索表

1. 前胸背前縁には直立した刺毛列を有する……2.
- 1'. 前胸背前縁には刺毛列を欠く……3.
2. 背面にはかなり光沢がある。前胸背の点刻は小さく、中央ではまばらとなる。腹部は第5節の両側を除いて光沢がある。体長16~20mm……*picea* WATERHOUSE
- 2'. 背面の光沢はにぶい。前胸背の点刻は大きく、一部でしばしばしわ状となる。腹部は全体に光沢を欠くか、あるいはかすかな虹光沢を有する。体長17.5~21mm……*parallela* (MOTSCHULSKY)
3. 腹面全体に光沢を有する……4.
- 3'. 腹部は第5節の両側を除いて光沢を有する……5.
4. 背面は黄褐色~褐色。上翅の隆線は明瞭。頭部は小さく、前頭は強くしわ状に点刻される。体長

- 19~42mm..... *niponensis* (LEWIS)
- 4'. 背面は赤褐色~暗褐色で、通常前胸背は上翅に比べ暗色を呈する。上翅の隆線はかすかで不明瞭。頭部は横長で、前頭は密に点刻されるがしわ状とならない。体長22~24mm.....*aritari* (NOMURA)
5. 前胸背後縁は1列の点刻で縁付けられる.....6.
- 5'. 前胸背の後縁は中央で縁付けられない.....7.
6. 尾節板は基部近くで横長に高まり、先端でやや上反する。体長16~21mm.....*convexopyga* MOSER
- 6'. 尾節板は先端近くで高まり、先端部は平圧され、中央部に縦の凹みを有する。体長16.5~18mm.....*diomphalia* (BATES)
7. 頭部の点刻は円形。.....8.
- 7'. 頭部は後方に開いた、やや縦長の点刻を具える。尾節は雄では横溝状、雌では中高で、強く点刻される、体長19~22mm.....*tokara* (NAKANE)
8. 琉球列島に分布する。.....9.
- 8'. 北海道、本州、四国、九州などに分布する。体長17~21.5mm.....*kiotoensis* BRENSKE
9. 背面の光沢はにぶい。小楯板は全く点刻されないか、かすかな細点刻を具える。尾節板は雄ではなだらかに円く、雌では先端 $\frac{1}{3}$ でやや中高となる。体長18~19mm.....*amamiana* (NOMURA)
- 9'. 背面は光沢がある。小楯板には明らかな小点刻を具える。尾節板は雄では中央でかなり中高となり、雌ではなだらかに円い.....*lochooana* (SAWADA)
- a. 上翅の内側に位置する間室は、シワ状あるいは融合した点刻を具える。体長19~22mm.....*subsp. lochooana* (SAWADA)
- b. 上翅の間室の点刻は融合せず、基亜種に比べ比較的まばらである。体長19~22.5mm.....*subsp. okinawana* (NOMURA)

1. *Holotrichia picea* WATERHOUSE, 1875 コクロコガネ

腹面は暗赤褐色~黒色。背面は通常黒色であるが個体により赤褐色を呈する。

分布：日本（北海道、本州、伊豆諸島、四国、九州）、朝鮮、満州、蒙古、中国。

伊豆諸島に産する本種は、一時期 *subsp. izuensis* NOMURA として扱われていたが、多くの個体を検討してみると、亜種の特徴とされていた外部形態は、伊豆諸島以外の地域における本種においても認められるため、亜種としての独立性は認められない。

2. *Holotrichia parallela* (MOTSCHULSKY, 1854) オオクロコガネ

我国に産する本属中、背面の光沢がにぶいものは、本種と *amamiana* の2種だけであり、他の種との区別は容易である。

分布：日本（本州、四国、九州、対馬）、朝鮮、済州島、樺太、満州、中国、チベット。

3. *Holotrichia niponensis* (LEWIS, 1895) オオチャイロコガネ

背面の色彩および後胸には淡黄褐色~黄白色の長毛を密生するなどの点で、他種との区別は容易である。長崎県五島列島を模式産地として記載された種であるが、原記載以降、朝鮮、東シベリア、中国などでその分布が確認され、また朝鮮では個体数もかなり多く、農業害虫としての報告もある程であるが、我国においてはその後採集の記録は見当らず、筆者も日本産の標本を実検したことはない。国内の産否には疑問がある。

分布：日本（九州：五島列島(?)）、朝鮮、東シベリア、中国。

4. *Holotrichia aritai* (NOMURA, 1964) アリタクリイロコガネ

西表島を模式産地とし、2頭の雌に基づいて記載された。我国に産する本属中、上翅の隆線が最も不明瞭であり、この点では前述の *Miridiba* 属の種類の印象さえ抱かせる。

分布：琉球列島（石垣島、西表島）。

5. *Holotrichia convexopyga* MOSER, 1912 マルオクロコガネ

尾節板の形態に特徴があり、他種との区別は容易である。

分布：日本（本州、伊豆諸島、九州）、中国。

6. *Holotrichia diomphalia* (BATES, 1888)

チョウセンクロコガネ

本種は韓国の釜山を模式産地として記載され、その後1913年に ARROW によって長崎から、そして1954年に村山醸造によって対馬からそれぞれ記録されている。残念ながら筆者は、国内産の本種を見る機会を得ていない。

分布：日本（九州、対馬）、朝鮮、済州島、東シベリア、満州、中国北部。

7. *Holotrichia tokara* (NAKANE, 1956) トカラクロコガネ

トカラ列島宝島を模式産地として記載された。外観は *kiotoensis* に似ているが、頭部の点刻などから区別できる。

分布：琉球列島（宝島、中之島）。

8. *Holotrichia kiotoensis* BRENSKE, 1894 クロコガネ

本属中最も個体数も多く普通に採集される。分布域もほぼ日本全土におよぶ（琉球列島を除く）。そのためあって、個体変異や地域による若干の違いが認められる。なお、種名は模式産地である京都に由来している。

分布：日本（北海道、本州、四国、九州、対馬）、朝鮮、樺太、東シベリア、満州、中国。

9. *Holotrichia lochooana* (SAWADA, 1950)

リュウキュウクロコガネ

本種は、次の2亜種に区別されている。

subsp. lochooana (SAWADA, 1950), s. str.

石垣島で採集された3頭の雄によって記載された。背面にかなり強い光沢を有する個体が多い。

分布：琉球列島（宮古島、石垣島、西表島、伊良部島）。

subsp. *okinawana* (NOMURA, 1964) オキナワクロコガネ

沖縄本島を模式産地として記載された。基亜種に比べ光沢のにぶい個体が多い。

分布：琉球列島（沖縄本島）。

10. *Holotrichia amamiana* (NOMURA) アマミクロコガネ

体は暗赤褐色～黒褐色。背面の光沢はにぶい。前胸背の側縁は、ほぼ中央で屈曲し、前半でわずかに湾入する。後縁は中央部を除いて1列の点刻を具える。小楯板は全く点刻されないか、かすかな細点刻を具える。尾節板は雄ではなだらかに円く、雌では先端 $\frac{1}{3}$ でやや中高となる。

分布：琉球列島（奄美大島、徳之島）。

本種は、背面の光沢がにぶいことで近縁種と容易に区別できる。

IV. Genus *Pollaplonyx* WATERHOUSE, 1875

オオキイロコガネ属

本属は、我国に産する1種、台湾に産する2種と朝鮮に産する1種などを含めて7種からなる小さな属である。外観は、*Holotrichia*属や *Amphimallon*属などとよく似ているが、触角や爪の形状などから区別することができる。

1. *Pollaplonyx flavidus* WATERHOUSE, 1875 オオキイロコガネ

体長16～20mm, 体は細長く、黄褐色～淡黄褐色。触角は10節で、葉片部は雄雌とも3節であるが、その長さは雄では柄部の $\frac{2}{3}$ 、雌ではおよそ $\frac{1}{2}$ 。前脛節は雄では2外歯を具えるが、第2歯は目立たない。雌では3外歯を具え、第2歯は明瞭であるが第3歯は目立たない。

分布：日本（本州、四国、九州）。

本種は熊本を模式産地とした新属・新種として記載された。平地～低山地帯で発生する種類のように、標高の高い場所では採集の記録は見られない。北関東以北では産しないか稀な種であるといえる。灯火に飛来する。

V. Genus *Sophrops* FAIRMAIRE, 1887 ヒメクロコガネ属

本属は、前述の *Holotrichia* 属のコガネムシに比べて小型で、15mmを超す種類はほとんど見当たらない。現在までに約25種程度が知られている。

1900年 BRENSKE はスリランカに産する *puttalan* という種を基に *Holotrichia* 属の中において、極く小型で後胸板に毛を欠くグループを *Microtrichia* という名のもとに新属として発表し、同時に、スリランカに分布する他の3種をこの属に組み入れている。しかし、BRENSKE の言う *Microtrichia* 属の特徴は、FAIRMAIRE が1887年に中国の雲南に産する *parviceps* を基として創設した *Sophrops* 属の特徴と全く一致する。従って、*Microtrichia* 属は *Sophrops* 属のシノニムと考えられる。我国には現在、2種類が琉球列島に分布する。

日本産種への検索表

1. 頭楯の前縁中央は明らかに湾入する。雄の触角葉片部は触角第2～7節の長さを合わせたものと等長、雌ではそれより短い。雄の第5腹節後縁中央には小さいコブ状隆起を有する

..... *kawadai* NOMURA

a. 体色は暗褐色～濃赤褐色。前胸背は雄では一様に点刻される個体が多いが、雌では中央後方に縦の点刻を欠く部分を有するものが多い。尾節板は先端近くでわずかに高まり、ほぼ一様に点刻される。体長12.5～13.5mm.....

..... subsp. *kawadai* NOMURA

b. 体色は赤褐色～淡赤褐色。前胸背は通常暗褐色で上翅は前胸背に比べ淡色であることが多い。前胸背は雄では中央より前方に縦のわずかな凹線を有する。雄ではほぼ一様に点刻される。尾節板は基亜種に比べ中高となり、点刻は両側でしばしば融合する。体長12.5～13.5mm.....

..... subsp. *okinawaensis* NOMURA

1'. 頭楯の前縁はかすかに湾入する。雄の触角葉片部は、触角第3～7節の長さを合わせたものと等長、雌ではそれより短い。第5腹節後縁は高まらない.....

..... *konishii* NOMURA

a. 体色は赤褐色～褐色。前胸背は暗色で上翅はそれより色が薄い。各肢は赤褐色。背面の点刻は比較的小さくやや密である。体長12.5～15mm.....

..... subsp. *konishii* NOMURA

b. 体色は暗赤褐色。頭部および前胸背は黒色。背面および尾節板の点刻は基亜種に比べ粗い。体長15～15.5mm.....

..... subsp. *yonaguniensis* NOMURA

1. *Sophrops kawadai* (NOMURA, 1959) アマミヒメクロコガネ

最初 *Microtrichia* 属で記載されたが、前述のような理由から本属に移されたものである。産地により次のような2亜種に区別される。

subsp. *kawadai* (NOMURA, 1959), s. str.

奄美大島の城（ぐすく）および西仲間を模式産地として記載された。7月～8月にかけて出現し、灯火などでかなりの個体が採集されている。

分布：琉球列島（奄美大島）。

subsp. *okinawana* (NOMURA, 1977) オキナワヒメクロコガネ

沖縄本島の首里を模式産地として記載された。発生時期は、基亜種とはほぼ同じようであり、個体数も比較的多い。

分布：琉球列島（沖縄本島）。

両亜種とも個体変異がかなり見られるために、外部形態によって区別しようとする、かなり難しい面もある。しかしながら雌交尾器の形態では、明らかに区別することができる。

2. *Sophrops konishii* NOMURA, 1970 ヤエヤマヒメクロコガネ

前種と同様に、本種も産地の違いにより、次の2

亜種に区別されている。

subsp. *konishii* NOMURA, 1970, s. str.

6~7月に、主に灯火採集によって得られる。

分布：琉球列島（石垣島、西表島）。

subsp. *yonaguniensis* NOMURA, 1970 ヨナグニヒメクロコガネ

与那国島の祖納で採集された1頭の雄を基として記載されている。我国に分布する本属中、最も採集記録の乏しいものである。

分布：琉球列島（与那国島）。

VI. Genus *Hexataenius* FAIRMAIRE, 1891 ケナガクロコガネ属

本属は触角に大きな特徴があり、雄では葉片部が6節で長く伸長し、柄部の2倍以上にも達する。雌では葉片部は短い、その節数が4節あるいは5節と多い。このような触角の特徴から本属を後述の *Heptophylla* 属などと同一のグループ（族）とみなす学者もいる。いずれにせよ、触角の特異な形態から、他の日本産の諸属との区別は容易である。現在では日本、中国、台湾から知られている2種からなる小さな属である。そのうち我国には、次の1種が分布している。

1. *Hexataenius protensis* FAIRMAIRE, 1891

ヒゲナガクロコガネ

体長：11.5~15mm、体は細長く、黒褐色~黒色。触角は9節で雄の触角葉片部は大きく屈曲し、柄部の約3倍の長さとなる。雌では葉片部は5節で、柄部より短い。前胸背は一部で融合した点刻をやや密に具え、中央にはかすかな縦凹線を有する。尾節は雄では短く、後縁の中央で湾入し、雌では長く中高となり強く点刻される。尾節板は雄雌ともにやや密に点刻される。

分布：日本（九州）、中国。

VII. Genus *Heptophylla* MOTSCHULSKY, 1857

ナガチャコガネ属

現在までに、日本、中国から3種2亜種が知られるだけの小さな属である。そのうち我国には2種2亜種が知られている。

日本産種の検索表

1. 体は暗褐色。頭部の点刻はやや粗く密であり、各点刻間には明らかな微細点刻を有する。雄の触角葉片部は長く、第5節はそれより前の葉片部の $\frac{3}{4}$ の長さとなる。体長13.5~15mm..... *tosana* MIYATAKE
- 1'. 頭部の点刻はやや大きく、前種に比べ密でない。雄の触角第5節は、第7~10節の $\frac{2}{3}$ の長さかあるいはやや短い程度。第6節は第7~10節よりやや短い..... *picea* MOTSCHULSKY
- a. 体は淡黄褐色~暗褐色。前胸背には中央付近に直立した毛を有する。雄の触角第5節は第7~10節の $\frac{2}{3}$ の長さ。第4節は突出するが伸長しない。体長12~15mm..... subsp. *picea* MOTSCHULSKY
- b. 体は黄褐色~褐色。前胸背には直立した毛を欠

く。雄の触角第5節は基亜種に比べやや長い。

体長12~13mm.....

..... subsp. *maenamii* NOMURA

c. 体は黒色~暗褐色。雄の触角第5節は第6節よりやや短い程度。第4節は長く伸長する。体長10~11.5mm..... subsp. *iriei* KUSUI

1. *Heptophylla tosana* MIYATAKE, 1963 トサナガチャコガネ

高知県の室戸岬と中村市近郊で採集された3頭の標本に基づいて記載された。原記載以降、模式産地以外からの記録は見あたらない。

分布：日本（四国：高知県）。

2. *Heptophylla picea* MOTSCHULSKY, 1857

ナガチャコガネ

本種は伊豆下田を模式産地として記載された。東京付近では、6月中旬~8月にかけて夕方より活動を始め、灯火にも飛来する。平地~山地にかけて、琉球諸島を除くほぼ日本全土で採集され個体数も多い普通種である。

本種は次にあげる3亜種に区別することができる。

subsp. *picea* MOTSCHULSKY, 1857, s. str.

日本本土に広く分布し、個体数も多い。地域により、色彩および触角の形態には変化が見られる。

分布：日本（北海道、本州、四国、九州、屋久島、対馬）、朝鮮。

subsp. *maenamii* NOMURA, 1969 イズナガチャコガネ

伊豆諸島に広く分布しているが、各島ごとに触角の形態などが少しずつ異なる傾向がある。亜種名は、長年にわたって伊豆諸島の昆虫相を調査された前波鉄也氏に献名されたものである。

分布：日本（伊豆諸島）。

subsp. *iriei* KUSUI, 1971 イリエナガチャコガネ

下飯島産の標本を基に記載された。学名は本種の採集者である入江平吉氏に献名されたものである。

分布：日本（九州：下飯島）。

VIII. Genus *Brahmina* BLANCHARD, 1850 アカチャコガネ属

BLANCHARD がこの属を創設した際、彼は他のクロコガネのグループと本属を区別する特徴について、爪が先端において切れ込むといっただけの内容の記載しかしていない。そのため、BRENSKE (1892)、REITTER (1902) 等によって、属としてのより明確な特徴が検討され、それ以前に発表された種についての整理がなされている。しかしながら、まだ一部には属の位置づけに疑問の持たれるような種が残されている。現在までに、旧北区、中でもヒマラヤを中心とした地域などから、約70種が記載されている。我国では、琉球列島に2種が分布しているのみである。

日本産種の検索表

1. 体は大型 (15.3 mm)。褐色~赤褐色。背面は頭楯を除き絹つや状光沢を呈する。一見したところでは気付かない程の非常に微細な軟毛を有する

.....yasuii NOMURA

1'. 体は小型 (10.5mm)。黄褐色。背面は明らかな点刻があり、各点刻からは短かいが明らかな横臥した黄褐色の毛を生じる…sakishimana NOMURA

1. *Brahmina yasuii* NOMURA, 1970 ビロウドアカチャコガネ

西表島で採集された2頭の雌個体に基づいて記載された。原記載以降、本種が採集されたという報告はなく、筆者も残念ながら模式標本以外の標本を検した事はない。

分布：琉球列島 (西表島)。

2. *Brahmina sakishimana* NOMURA, 1965

アカチャコガネ

西表島で採集された1頭の雌の標本を基に記載された。原記載以降採集の記録は見当たらないが、筆者の手許に雄の標本があるので、簡単にその特徴を記しておく。色彩および体長は雌と変わらない。触角葉片部は柄部とほぼ等長。第6節および第7節は先端でやや突出するが伸長しない。尾節は比較的幅広く前方に向かって中高となる。尾節板はほぼ平坦。前脛節の端歯は極く短い。

分布：琉球列島 (西表島)。

IX. Genus *Metabolus* FAIRMAIRE, 1887 チョウセンキコガネ属

前述の *Brahmina* 属と極めて似た外部形態を持

つが、触角が9節である点で区別されている。現在までに、トルコ、中国、台湾、朝鮮から6種が知られている。

1. *Metabolus impressifrons* FAIRMAIRE, 1887
 チョウセンキコガネ

本種は中国の北京を模式産地として記載された種であり、中国および朝鮮に分布する。1895年、LEWISは *Rhyzotrogus niponicus* という種類を九州の五島列島から記載しているが、その記載から考えて、この種類は本種のシノニムであることに間違いがない。また、新島・木下 (1923) が朝鮮の水原を模式産地として記載した *Miridiba koreana* も本種のシノニムと考えられる。

体長：11~15mm 淡黄褐色~黄褐色。背面には毛がなく、かなり強い光沢を帯びる。前頭には両側にかなり強い隆起があり中央は凹む。触角葉片部は、雄では柄部とほぼ等長であるが雌では柄部の $\frac{1}{2}$ より短い。

分布：日本 (九州：五島列島) (?), 朝鮮, 満州, 中国。

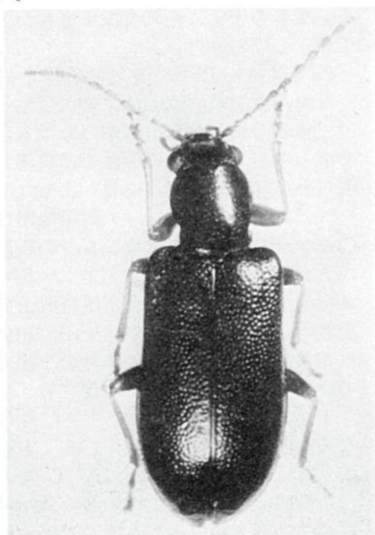
LEWIS の五島列島からの記録は、その後の採集記録はなく、筆者も国内産の本種を検した事がないので、本種が国内に分布しているかどうか甚だ疑わしい。
 (東京都練馬区)

○クロナガハムシ ^{ごかのしよ} 五家荘に産す

クロナガハムシ *Orsodacne arakii* CHÛJÔ は、寒冷地に産するハムシのようで、本州 (中部以北の山地) と四国 (剣山) から知られているが、筆者は熊本県五家荘において、本種を採集しているので記録しておきたい。

熊本県五家荘白鳥山 (Mt. Shiratori) (標高約 1500 m 付近) 3頭, 24. vi. 1982; 5頭, 25. vi. 1982, 筆者採集保管。

本種はハムシとしては変っていて、一般に山地の花上で得られているが、当地ではサワフタギの花上より採集した。採集場所は、キベリカタビロ



五家荘産クロナガハムシ

ハナカミキリ *Pachyta erebia* が採れている内大臣国見岳とは峰続きで、脊梁山脈の中心部ということもあり、他にも中部山岳以北でしか記録のないような北方系の昆虫が生息しているかもしれない。

本種は色彩変異の多い種であるが、五家荘産は、上翅は黒褐色、足は黄褐色~黒褐色で、上翅に種々の淡色紋を持つものや全体淡色になる個体は含まれていない。

末筆ながら、五家荘について色々御教示いただいた大塚 勲氏に心より厚く御礼申しあげる。

(長崎県島原市, 今坂正一)

○モモンチビオオキノコムシの新産地

モモンチビオオキノコムシ *Tritoma cenchrus* LEWIS は、関東では平野幸彦 (1977, 神奈川虫報 (52): 27) による箱根大涌谷が知られているだけで、かなり珍しい種類であると思われる。また神奈川県においても箱根地方以外での新産地の発見は、本種が暖地性のものと考えられることから否定的にならざるを得なかった。しかし、今回丹沢にも分布することが明らかになったので報告する。

1頭, 神奈川県西丹沢鬼石沢, 6. viii. 1982, 筆者採集。

(神奈川県綾瀬市, 西川正明)

○対馬から新記録のハネカクシ追加 2 (ハネカクシ科分布資料 9)

対馬のハネカクシに関しては、白水・宮田 (1975: 対馬の生物, 647~648) によって、1974年までに同島から記録されたハネカクシ類23種が収録されているが、その後、渡辺 (1975: 1種)、渡辺・岸田 (1976: 15種; 1978: 5種)、柴田 (1978: 7種) および渡辺 (1982: 3種) 等によって追加報告がなされ、現在まで同島産のハネカクシ類は54種が記録されている。ただし、前々号の本誌で渡辺 (1982) が未記録種として報告した *Medon lewisius* (SHARP) は、既に柴田 (1978) によって記録されていたので既知種と訂正する。従って、実際の同島産既知ハネカクシ類は53種ということになる。

最近、筆者は東京農業大学昆虫学研究室に所蔵されていた標本中から同島より未記録の下記4種のハネカクシを見出したので、ここに記録し標本を寄贈された采川昌昭博士の御厚意に報いたい。この報告の結果、対馬産ハネカクシ類として57種が判明したことになる。

なお、下記のいずれの種も採集地は厳原、採集年月日は1964年6月9日、採集者は采川昌昭氏である。

1. *Stenus (Nestus) melanarius verecundus* SHARP 1♀.
2. *Astenus chloroticus* (SHARP) 1♂.
3. *Stilicopsis setigera* SHARP 1♂.
4. *Lobrathium partitum* (SHARP) 1♂.

(東京農大, 渡辺泰明)

○西表島からキムネチビモンヒゲナガゾウムシの記録

キムネチビモンヒゲナガゾウムシ (新称) *Deropygus flavicollis* MORIMOTO, 1978 は、奄美大島湯湾岳および石垣島オモト岳から採集された標本に基づいて記載された種であるが、筆者は国立科学博物館の黒沢良彦博士の御好意により、これまで記録のなかった西表島産の標本を検する機会に恵まれたので分布資料として報告しておく。常日頃有益な御助言を賜わる黒沢良彦博士に深謝申し上げます。

2頭、沖縄県西表島ゴザ岳, 17. v. 1973, 中根猛彦採集, 国立科学博物館所蔵。

(東京農大, 妹尾俊男)

○トカラ列島中之島からヤツボシヒゲナガゾウムシの記録

ヤツボシヒゲナガゾウムシ *Deropygus histrio* SHARP, 1891 は、Ichiuchi から Lewis によって採集された2頭の標本に基づいて記載された種であり、現在までに本州、四国、九州、対馬から記録されてきた。最近筆者は、九州大学農学部昆虫学教室の森本桂博士の御好意により、トカラ中之島産の本種の標本を検する機会に恵まれたので報告する。

1頭、トカラ列島中之島, 1. vii. 1973; 11頭, 28. iv. 1975: 1頭, 30. iv. 1975, 入江平吉採集。チビモンヒゲナガゾウムシ属 (新称) *Deropygus* に含まれる種類はいずれも背面の斑紋に著しい変異が

認められ、なおかつ互いに酷似するが、主として尾節板及び生殖節の形態に安定した種の標徴が現れる。そこで上記のトカラ中之島産の標本と九州及び対馬産の標本のそれらの形質に関して比較検討したが、特記すべき差異は認められなかった。

末筆ながら、常日頃御指導を賜わる森本 桂博士に感謝申し上げます。(東京農大, 妹尾俊男)

○クロサマメゴモクムシの採集例

クロサマメゴモクムシ *S'enolophus kurosai* TANAKA は関東地方では個体数も多いが西日本では岩湧山より知られているにすぎない。

筆者らは和歌山県白浜温泉付近で本種を採集しているのでここに報告しておく。

2♀, 和歌山県西牟婁郡白浜町内の川, 17. x. 1981. 森田誠司, 田中昭太郎採集: 3♀, 和歌山県西牟婁郡白浜町椿, 30. x. 1981. 田中昭太郎採集

(東京都港区, 森田誠司・和歌山県西牟婁郡, 田中昭太郎)

○*Shigizo rhombiformis* MORIMOTO 石垣島の記録

本種は MORIMOTO (1981) によって、奄美大島、沖縄本島、宮古島、西表島の各島産の3♂♂♀♀をタイプとして記載されたシギゾウムシであるが、石垣島からは記録されていないので、筆者の所有している標本を報告する。

1頭, 石垣島米原, 25. viii. 1974, 田村 修採集。1頭, 石垣島於茂登岳, 29. iv. 1976, 高橋隆信採集。(和歌山県有田郡, 的場 績)

○台湾未記録のオオヒゲブトハナムグリについて

オオヒゲブトハナムグリ *Lichnanthe splendens* YAWATA は1942年与那国島を模式産地として記載された種であり、その後石垣島からも追加記録されているが、台湾からは未だ知られていないようである。筆者の手元に台湾で採集された1個体があるので報告しておく。

1♀, 9. vi. 1976, 陳文龍採集

なお、原記載には「体に密に黒色毛を装う」とあり、筆者の検した石垣島産の♀でも全て体毛は黒色であったが、台湾産の個体では黄色毛であった。体毛以外には全く区別点は見い出せなかった。

(大阪府池田市, 越智輝雄)

○タンザワツヤヒラタゴミムシの新産地

タンザワツヤヒラタゴミムシ *Synuchus tanzawanus* (HABU) は神奈川県丹沢山を原産地として記載された種で、その他富士山、箱根、丹沢川掛から知られている。筆者は本種を下記のとおり採集しているので新産地として報告する。

1頭, 神奈川県真鶴岬, 3. xi. 1976; 9頭, 静岡県天城山, 19. vii. 1975; 1頭, 東京都奥多摩御岳山, 27. ix. 1975; 7頭, 同, 3. x. 1975.

比較的広く分布する種の多い *Synuchus* 類の中でこの種は富士箱根丹沢とその近接地域に局限されて分布するようである。(東京都港区, 森田誠司)

○伊豆諸島未記録のコメツキムシ 2 種

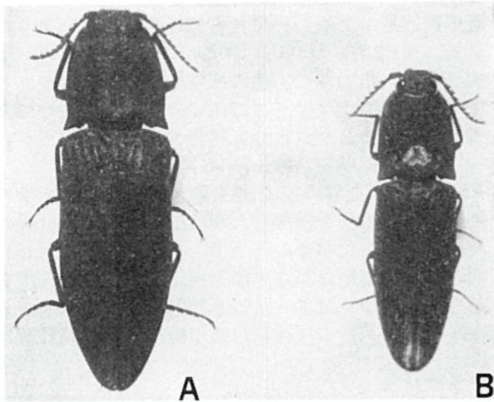
筆者は従来伊豆諸島から記録のなかった下記の 2 種のコメツキムシを所持しているののでここに報告しておく。

1. オオサビコメツキ *Lacon maeklinii* (CANDÈZE, 1865) (写真 A)

御蔵島里：1 頭，21. vii. 1974，筆者採集；1 頭，23-24. vii. 1974，ライトトラップ，筆者採集。

三宅島大路池：1 頭，29. vii. 1975，藤田宏採集。

本種は北海道・本州・四国・九州・屋久島に分布することが知られていたが，伊豆諸島からの記録はなかった。成虫は夏にライトによく集まり，幼虫は枯木等に入る。筆者は本種の幼虫をタンナサワフタギの立枯れの中から見出した事があるが，その際幼虫がトガリバホソコバナカミキリ *Necydalis formosana niimurai* HAYASHI の幼虫を捕食しているのを観察した。大平 (1962年，昆虫，30：126-129，pl. 5) は，奄美大島の標本に基づいて本種幼虫の形態記載を行なったが，現在では本種の分布域から「奄美大島」は除外され，代りに近縁のヤエヤマサビコメツキ *Lacon yayeyamana* (MIWA, 1934) が分布することが知られているので，大平の幼虫記載は後者の誤りかもしれない。



2. コガタノサビコメツキ *Lacon parallelus* (LEWIS, 1894), ssp. (写真 B)

御蔵島里～黒崎高尾：1 頭，1. v. 1982，長谷川道明採集。

原名亜種 *L. parallelus parallelus* (LEWIS, 1894) は北海道・本州・四国に分布することが知られているが，個体数は少ないようである。奄美大島には別亜種 *L. parallelus amamiensis* ÔHIRA, 1967 を産するが，体は赤褐色でより小型 (約 9mm) であり，前胸背板中央には縦溝を有さないことで区別されている。今回御蔵島で採集された個体は，体長 12.5mm で，体は赤褐色～暗赤褐色，前胸背板はよく盛り上がるが，中央には大変浅くて狭い不明瞭な縦溝が認められた。前胸背板の形質は奄美大島のものにやや似るが，体長に差があるのと，奄美大島のものをまだ検したことがないので，ここでは亜種の決

定は控えておくことにした。

HAYEK (1973), *Bull. Br. Mus. nat. Hist. (Ent.)*, *Suppl.*, 20: 1-309) は *Alaotyplus* 属を *Lacon* 属のシノニムとして扱い，亜属としても認めなかったが，ÔHIRA (1977) の日本のコメツキムシのチェックリストでは *Alaotyplus* は *Lacon* 属の亜属として残し，*Lacon* 属をサビキコリ亜科 *Agrypninae* からウバタマコメツキ亜科 *Chalcolepidinae* へ移した。最近の STIBICK (1979, *Pacif. Ins.*, 20: 145-186) の論文では，サビキコリ亜科及びウバタマコメツキ亜科は共に *Pyrophorinae* 亜科のそれぞれ族として扱われ，*Lacon* 属はサビキコリ族 *Agrypnini* に含めている。

本筆ながら報告するに当り，標本を御恵与下さった藤田宏・長谷川道明両氏に心から感謝する。

(東京農大，鈴木 互)

○エグリヒゲナガゾウムシの四国からの記録

エグリヒゲナガゾウムシ *Gibber incisus* (SHARP, 1891) は，日本からは本州，九州が分布地として知られている。妹尾 (1979) は，「新潟県産のヒゲナガゾウムシ科」(新潟県の昆虫：越佐昆虫同好会) を執筆した際，手許の標本に基づいて四国も本種の分布地としたが，四国からの詳細な記録は見当らないので採集データを加えて改めて報告する。

1 頭，愛媛県小田 (標高 200m)，21. vi. 1964，菅 晃採集。

本種は，*Tropideres* 属で記載されたが，JORDAN (1912) によって *Directarius* 属に移され，最近 MORIMOTO (1981) によって *Gibber* 属に含められた。

末筆ながら，貴重な標本を提供して下さいました楠 嘉博氏に深謝申し上げる。(東京農大，妹尾俊男)

○北海道・渡島大島のスジコガネ類

北海道南部の渡島 (おしま) 半島の西方約 50km の海上 (北緯 41 度半，東経 139 度半) に大島という小さい島があるが，この島で採集されたスジコガネ亜科のコガネムシ類を検する機会を得たので，下記のように記録しておく。採集データはすべて同じである。

1982年 7 月 11, 13 日 長尾 康採集。標本は筆者保管。

1. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY 8♂，5♀ (緑色個体 5♂，2♀；銅緑色個体 1♂，1♀；紫紺色個体 2♂，2♀)。このような体色の出現は，本州東北部や北海道渡島半島とくらべてほぼ同様のものといえる。

2. セマダラコガネ *Blitopertha orientalis* (WATERHOUSE) 2♂。1 頭は標準的な斑紋をもち，もう 1 頭は黒化の度合の高いもので紫金色の金属光沢を強くもっている。体長はいずれも 11mm。このような個体は，本州各地の低平地および北海道半島部にひろくみられる個体群と同様である。

標本を寄贈して下さいました長尾 康氏に深くお礼を申し上げます。(東京都杉並区，石田正明)

○食菌性甲虫 3 種の生態

1. オオナガキスイ *Cryptophagus enormis*
HISAMATSU

本種の成虫はマツの枯木に生ずるヒトクチャタケ *Cryptoporus volvatus* から採集されることで知られるが、東京浅川で5月上旬に写真に示すようにヒトクチャタケの子実体に深く穿孔する幼虫を観察することができた。写真は子実体を縦に切断して孔道と幼虫(尾部)を写したもの。幼虫は5月下旬ごろ子実体の中で成虫となった。



2. ケモンケンキスイ *Atarphia fasciculata*
REITTER

神奈川県大山で昨年9月下旬に枯枝に生えたチャコブタケ *Daldina concentrica* 数個を採集し容器に入れておいたら、10月上旬にケンキスイ幼虫約10頭が這い出てきた。幼虫は土中へもぐって越冬、翌春に土中で蛹化、次いで本種の成虫となった。

秋に幼虫が出現するセマルケンキスイ類 *Cychramus* も幼虫越冬である。

3. ウスオビキノコケンキスイ *Pocadites dilatimanus* (REITTER)

多孔菌に集まることで知られる本種の成虫を5月上旬、神奈川県高麗山付近のクロマツの枯木の樹皮上から約20頭を発見した。樹皮にはわずかながら多孔菌の子実体がみられた。幼虫は発生していなかったが、樹皮と多孔菌を容器に入れておいたら5月中旬に多くの幼虫が出現した。幼虫は土中へもぐって蛹化、6月上旬には土中で成虫となっていた。卵から成虫までの期間は約1カ月。

(横浜市港北区, 林 長閑)

○奥尻島および北海道未記録のゴミムシダマシ

筆者は今夏(1982年)、北海道西南部で採集する機会があったが、その際得た以下のゴミムシダマシ科の甲虫は、中根猛彦・益本仁雄(1969, 昆虫と自然 4 (8-9): 23-29, 32-34)の目録、中根猛彦(1975, 国立科博専報(8): 163-166)の分布表に北海道が産地としてあげられていないので、既に採集されているものかもしれないが、記録しておきたい。

チビキノコゴミムシダマシ *Platydema sylvestre* LEWIS: 1頭, 渡島支庁大千軒岳, 12. viii. この個体は、本州産に比べ背面はあまり隆まらないが、間室がより隆まる。

クロホソゴミムシダマシ *Hypophloeus colydioides* (LEWIS): 8頭, 檜山支庁奥尻島神威山, 14. viii. 全てブナの立枯から採集した。

ニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus lunuliger* (MARSEUL): 1頭, 奥尻島幌内温泉, 14. viii. (神奈川県綾瀬市, 西川正明)

○チャバネヒメヒラタゴミムシの山梨県における記録

チャバネヒメヒラタゴミムシ *Agonum* (*Europhilus*) *jurecekianum* JEDLIČKA は東シベリアから記載され、わが国では北海道の帯広、池田町、石狩町等に記録があるがいずれも個体数は少ないようである。本州では HABU (1963) による長野県霧ヶ峯の記録があるのみで、他に採集例はないようである。筆者は本種を山梨県三ツ峠山で採集しているため、本州における2例目として報告する。

1♀, 山梨県三ツ峠山, 18. vi. 1978.

Europhilus 亜属の種は通常湿地帯に生息するものであるが、本種を採集した所は三ツ峠山山頂付近の比較的乾燥した草原の石下で、異例のことと思われる興味深い。末尾ながら本種を同定していただき、文献等をご教示くださった笠原須磨生氏に深謝する。(神奈川県川崎市, 田尾美野留)

甲虫談話会

会費(一ケ年)2000円, 次号は12月30日発行予定。

発行人 黒澤良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話(364)2311, 振替東京0-60664

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5号(各号100本180円)

なお、有頭針00, 0号もできました。その他、採集、標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

電話(03)409-6401(ムシは一ばん)

振替 東京 21129

志賀昆虫普及社

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥5,000, 桐合板製
インロー型標本箱中 ¥1,500, 送料一箱につき都
内及第一地帯: 3個以下 ¥1,300, 4個以上 ¥850
(以下同様), 第2地帯 ¥1,500, ¥950, 第3地帯
¥1,700, ¥1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作
販売します。カタログを御請求下さい。(¥160)

タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-212-25

電話(03)811-4547, 振替 6-113479